

1 単元 ハンドボール ～ボール運動～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、プレルボールの学習において、全員が楽しむためにどうすればよいか話し合い、運動に取り組むことを経験している。そこでは、ボールの落とし合いというネット型固有の面白さに着目しながら、ルール工夫やボール操作やボールを持たないときの動きについて捉えてきた。このような子どもが、ハンドボールの学習においても、ゴール型固有の面白さから、より楽しさを味わうためのルールや、見出した課題を解決するために、自分たちなりに学習活動を組み立てていくことに取り組めば、目的をもち、運動を楽しむことにつながるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、ルールや作戦を工夫したり、集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりしながら、運動の楽しさや喜びを捉えることができる教材となっている。ここでは、どうすればゴールにボールを入れられるか、入れさせないようにできるかをゲームの中で試しながら、ボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けることが大切である。そこで、どうすれば運動を楽しくできるか探求する活動を設定する。子どもは、ゴールにボールを入れたり、入れさせないようにするために動きを身に付けたり、気付いたことを共有し、協働的に学んだりしながら、ゴール型運動について自分なりに楽しむだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めには、ハンドボールのゲームの動画を見たり、試しのゲームを行ったりして運動固有の面白さを共有する。そうすることで、ゴールへのボールの入れ合いを視点に、ルールの工夫やボールの操作、ボールを持たないときの動きについて話し合うことができるようにする。
- 単元を通して、設定した学習活動が有効であったか、運動への捉えが高まったかの視点で振り返らせることで、次時からの学習について、学習活動と学習内容を結び付けながら見通しをもったり、より有効的な課題の解決方法について考えたりすることができるようにする。

3 目標

- (1) ゴール型運動の行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考え取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

4 指導計画（総時数 8 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ①	○ ハンドボールの運動固有の面白さについて、試合の動画や試しのゲームを行って捉える。 ・運動固有の面白さ ・単元の見通し ・必要な動き方	○ ハンドボールのゲームの動画を見たり、試しのゲームを行ったりして面白さを共有することで、ゴールへのボールの入れ合いを視点に、ルール工夫やボールの操作、ボールを持たない動きについて話し合うことができるようにする。
二 ⑦ 本時 4 / 7	○ 運動固有の面白さを視点に必要な動きや、全員が楽しめるルールについて調べたり、話し合ったりする。 ・チーム内での役割 ・ゲームでの作戦 ○ 自分たちに合うように工夫したルールの中で、ゴールへのボールの入れ合いを試し合う。 ・ゲームの行い方 ・ボール操作 ・ボールを持たない時の動き ○ どうすれば運動が楽しくなるかについてまとめる。 ・運動の行い方 ・運動の楽しさ ・運動の課題と解決方法	○ 単元のなかで、運動固有の面白さをもとに、課題に対する考えをもつために、個人で調べる活動を設定することで、チームで話し合う際に、自分の考えをもち、話し合いに参加することができるようにする。 ○ 単元の中盤で、チーム替えを行い、それまでのチームメイトとは違うチームで活動を行わせることで、それぞれの経験から作戦について話し合い、運動に対する見方を深めていくことができるようにする。 ○ 学習の振り返りや気づきを単元通して一枚のワークシートに記録させることで、単元の中でのつながりを意識しながら、その時間の課題を設定したり、学習を振り返ったりすることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ハンドボールの行い方について言ったり、ワークシートに書いたりしている。 ② ボールを確実にキャッチすることができる。 ③ 狙ったところにボールを投げることができる。 ④ 味方からボールを受ける為に、守りをかわしてボールを受けようとする事ができる。	① 攻めと守りのバランスがよくなるようなルールの工夫を考えている。 ② ボールを持っている人と、持っていない人の役割を明確にして、どのようにゲームを行うか考えている。 ③ ボールをつなぎながらゴールに近付こうとしたり、近付けさせないようにしたりする工夫を仲間に伝えている。	① ゲームに積極的に取り組もうとしている。 ② ルールを守り、仲間と助け合い運動をしようとしている。 ③ 用具などの準備や片付けなどで、自分の役割を果たそうとしている。 ④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥ 場や用具の安全を確かめて

		いる。
--	--	-----

6 本時案 ー第二次・4時分ー

(1) 主眼 自分たちの課題をもとに学習活動を設定し、試行錯誤しながら運動に取り組む活動を通して、簡易化されたゲームによりよく取り組むことができる。

(2) 準備 ボール、ゴール、ワークシート、タブレット、ホワイトボード

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時を振り返り、各チームで本時のめあてを設定する ・学習の見通し	ア 前の時間の試合の振り返りで、パスのキャッチが課題という話が出たよね イ 今日は、パスをしっかりとキャッチしながらゴールを狙うための練習をしてからゲームに取り組もう	・ 前時までの学習を内容と活動から振り返らせることで、単元のつながりを意識し、本時の活動を設定することができるようにする。	5
2 課題をもとに、動きを身に付ける ・ボール操作 ・ボールを持たない動き	ア ゲームをする前に、チームの課題であるキャッチができるように、パス練習をするよ イ 前の時間に他のチームがやっていた動き方を参考に作戦を考えたら、試してみよう ウ 実際にゲームのような流れで作戦を試すために、チームを半分に分けて行ってみよう	・ 運動固有の面白さをもとに、ゲームでの攻めや守りの動き方を振り返らせることで、ゲームでの課題をもとに、チームや個人に合わせて「みがき」の活動を設定することができるようにする。	15
3 ゲームを行う ・ゲームの行い方	ア 今日のゲームでは、点の中々入れられなかったね。パスカットをされることが多かったから、しっかりと守りをかわしてボールをもらえるとよいね イ 守る人を決めていたけど、かわされるとすぐゴールに近付かれてしまったね。かわされた時の対処法を考えたいね	・ ゲームでどのようなことを意識するか、チームで共有させ、「ためし」の活動の前後で振り返りを行わせることで、全員が意図をもってゲームに参加し、次のゲームへの目標を設定することができるようにする。	35
4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ ・運動の課題 ・課題解決の方法	ア 次の時間は、今日のゲームで感じた課題を解決するために学習活動を設定したいね イ 考えた攻め方が上手いかなかったね。次の時間は攻め方をさぐる時間にしたいよ	・ 本時の課題や課題の解決方法について振り返る場を設定することで、次時の学習の見通しをもつことができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

自分たちの課題をもとに学習活動を設定し、試行錯誤しながら運動に取り組む活動を通して

て、簡易化されたゲームによりよく取り組むことができたか、発言やワークシートの記述から見とる。

<メモ>